稚内港将来ビジョン

稚内市の独自性を活かしながら、世界・日本・北海道・宗谷といった地域に貢献し続ける稚内港の将来像を描くものです。

概ね 20～30 年後の将来像です

達成時期：平成 40～50 年代

稚内港将来ビジョン

稚内市が活性化し、継続的な発展を維持する地域となるためのみなとを目指します。

稚内市・稚内港の課題とポテンシャル

【課題】
- 雇用の維持拡大・良質な生活環境の創出
- 蓄積したノウハウを活かした活性化
- サハリンや利尻礼文、道北の観光資源連携による商品開発と世界へのプロモーションによる需要拡大

【活かすべきポテンシャル】
- 陸路、海路、空路の結節、極東ロシアと近接、結びつきの歴史
- 進展するサハリンプロジェクト
- アジアなどへの水産物輸出が継続、拡大
- 新エネルギー導入先進地　　など

第４次稚内市総合計画（平成 21 年３月）

世界をマーケットと捉えた稚内港の展開

～　最北の拠点港　稚内港から　世界へ
世界から　稚内港へ　～

1. 世界のエネルギー供給を支えるみなと
2. 世界と結び産業を支えるみなと
3. 世界から集い賑わうみなと
4. 地球にやさしいみなと
5. 安心・安全なみなと

■将来ビジョンは、短期的に実現するものから、達成年までに実現を目指すものなど、それぞれ短期・中期・長期に分けて取り組んでいきます。

○稚内港港湾計画※1は、平成 10 年 11 月の改訂から４回の軽易な変更をしています。
○稚内港は、日本最北の重要港湾※2となっています。
○また、国際フェリーを中心としたサハリンや北東アジアへの更なる貿易の活性化が期待され、日本海側拠点港に選定されています（平成 23 年 11 月選定）。

※1　港湾計画：港を計画的に開発・利用・保全を行うため、港湾管理者が港湾法に基づいて定める基本的な計画。
※2　重要港湾：港湾法により定められている港湾の分類（ランク）の一つ。国際海上輸送網または国内海上輸送網の拠点となる港湾その他の国の利害に重大な関係を有する港湾。

1.　世界のエネルギー供給を支えるみなと

稚内港がサハリンプロジェクトの支援や安全確保の拠点として、世界のエネルギー供給をささえるみなとを目指します。

※サハリンプロジェクトとは
サハリン島を取り巻く 9 つのエリア(鉱区)で石油・天然ガスを開発する大規模なプロジェクトのことです。サハリンプロジェクトは、大規模な開発であるため、膨大な量の資機材がサハリンに搬入されて使用されたり、使用後に搬出される他、多くの人々が業務に従事しています。

①　サハリンプロジェクトの支援基地に　短期

サハリンプロジェクトに使用する資材や機材などを保管したり、加工したりすることができる機能を確保して、適時適量の供給ができるようなサハリンプロジェクトの支援基地を目指します。

■稚内サハリン航路を核とした稚内経由ルートをつくります。

■中継拠点としての機能を確保します。

②　サハリンプロジェクト関連船舶の修理点検や準備休憩基地に　短期　中期

サハリンプロジェクトに関連する船舶(せんぱく)の修理点検や、準備休憩、船員交代などができるような造船機能や休憩機能が充実した基地を目指します。

■油防除基地(あぶらぼうじょ)としての機能と連携しながら、造船の修理などに必要な造船機能を高めます。

■避難や準備休憩などを目的とした船舶のための機能を確保しながら、物資調達や休憩等のサービスも充実させます。

■周辺海域に航行している船舶に対しても、積極的に稚内港を利用してもらうことを PR します。

③　油防除基地(あぶらぼうじょ)に　短期　中期

採掘(さいくつ)基地やタンカーの事故リスクに備えて、万が一、油が海面に漏れ出す事故などがあった際に、油の流出の拡大を緩和させることができる基地を目指します。
これにより、周辺海域の環境保全が図られ、また、世界への安定したエネルギー供給が可能となります。

2.　世界と結び産業を支えるみなと

サハリンとの既存航路を利用しやすくしたり、税関等の手続きを簡単にします。
また、ロシア本土・欧州・アジアとの新しい物流ルートをつくり、世界とつながる産業を支える交易拠点を目指します。

①　ロシア・欧州・アジアとの交易拠点に

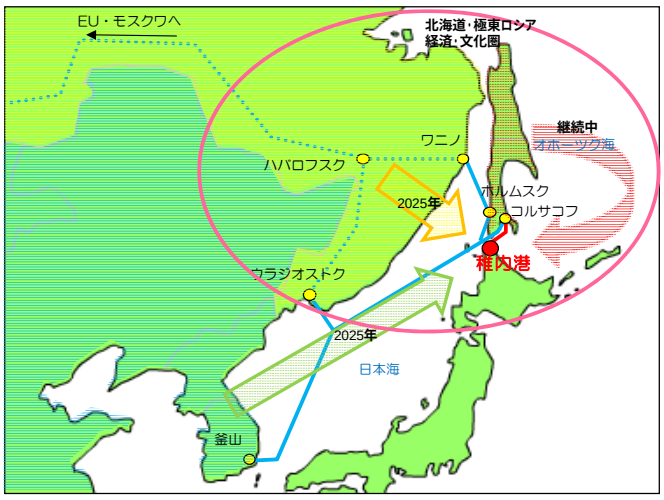
短期　中期

既存の稚内サハリン航路の利便性を高め、ロシア・欧州・アジアと結ぶ効率的なルートをつくり、輸出・輸入の拡大や発展を目指します。

■日本海側拠点港として、稚内サハリン航路を利用しやすくします。
■「CIQ簡素化」「内航船扱いの運航」「シャーシ相互乗入」などの実現を目指します。

・CIQ 簡素化（税関・出入国管理・検疫の手続きを簡単にすること）により、利用しやすくなります。
・内航船扱いの運航（国内を航行する船舶と同基準にすること）で、航行許可に関する要件の緩和などが期待されます。
・シャーシ相互乗入は、日本の車が相手国、またはその逆を通行することができるようにすることです。

◆目標とする航路（イメージ）



■コルサコフ接続でロシア本土・欧州・アジアと結び、北海道からの輸出産品の効率的なルートをつくります。

■小口貨物を効率的に輸送するための機能や、物流の品質・温度管理を充実させます。
■雪氷エネルギー※3などを利用した低温物流システムをつくり、そのシステムを輸出します。

■道央圏を含めた全道・全国を輸出入のターゲットとします。
■米や乳製品・加工品等の食料を輸出の中心的な貨物として安定供給を進めます。

■新たな農水産物の生産・食品加工などの生産技術を提案しながら、道内各地の産業の原料などを安定的に輸入します。

※3　雪氷エネルギー：雪や氷などの冷熱のこと。わが国においては、農水産物の貯蔵や建物の冷房に利用されている。

3.　世界から集い賑わうみなと

稚内港への誘客に向けて、全国・海外へ積極的に PR し、世界から集い賑わう魅力あるみなとを目指します。また、市民も集い憩うことができる交流拠点を目指します。

①　世界・全国からの拠点に

短期　中期

世界や全国に向けた新たな観光ツアーなどの開発し、それらを PR することにより、多くの人が集い賑わうみなとを目指します。

■ロシアとアジアを結ぶツアーに向けて、海路・空路・JR 等の交通機関の連携を図ります。

■サハリンから稚内や宗谷に、稚内からサハリンへの誘引に向けたツアーやビザ免除交流※4 などにより、観光客などのさらなる交流を進めます。

■利尻・礼文と連携した観光振興を促進します。

■周辺地域や道内主要観光地と連携し、様々な魅力を活かした体験産業観光などの新たな観光ツアーなどの商品をつくります。

■クルーズ船の寄港地として、旅客へのおもてなしやオプションツアー※5 などの開発を行います。

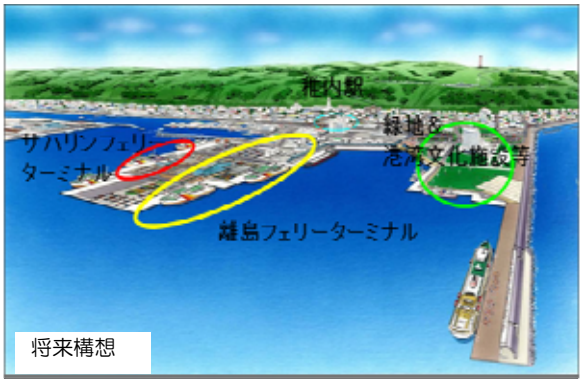
②　市民の憩いの空間・交流拠点に

短期　中期

「みなと」と「まち」を一体的に魅力を高めながら、多くの市民によるみなとの賑わいをつくることを目指します。

■「みなとを考える女性ネットワーク」や「みなとまちづくり懇談会」などの市民の利用による賑わいを活発化します。

■稚内マリンタウンプロジェクト（MTP）※6 を通して、「みなと」と「まち」の連携を強化し、みなとまちとしての交流拠点をつくります。



※4　ビザ免除交流：渡航先への入国に必要な証明書であるビザの入国許可の手続きを免除した海外との交流。
※5　オプションツアー：旅行の自由行動時間（フリータイム）に希望者が別料金を支払って参加する観光のメニュー。
※6　稚内マリンタウンプロジェクト（MTP）：ロシアとの定期航路開設などの国際化や、年々盛んになりつつある様々な交流に対応し、快適で健康的な生活を送ることができるまちづくりを目的とする稚内の再開発計画。

4. 地球にやさしいみなと

地球にやさしいみなととして、新エネルギー※7 供給拠点をつくるとともに、新エネルギーに関連する新たな産業の展開、シップリサイクルの取り組み拡大を目指します。

① 新エネルギー拠点に

中期 長期

■稚内にある新エネルギー施設を活用し、サハリン天然ガス※8 と組み合わせたエネルギー供給拠点をつくります。

■新エネルギー関連の新規産業を展開し、原料や製品の輸出入や移出入を増やします。

【新エネルギー拠点に向けて】

- 新エネルギーによる産業観光
- 食料・花の施設栽培（野菜工場）
- 食料備蓄基地構想
- 新エネ関連企業誘致

② シップリサイクル拠点に

中期

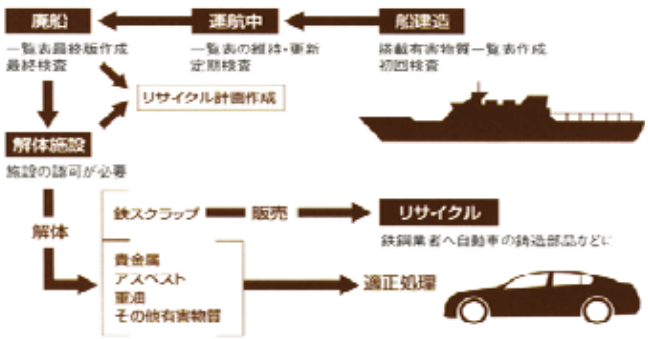
わが国をはじめ先進国で課題となっているシップリサイクルへの取組を広げるため、既存の造船機能を活かしたシップリサイクル機能を持つことを目指します。

■ロシアやアジアの船舶受入も含めたシップリサイクル機能を確保します。

【シップリサイクルについて】

シップリサイクルとは、寿命を終えた船を解体し、自動車や建材などにリサイクルして再生利用することです。

日本ではシップリサイクル問題への国際的な貢献が求められています。



※7 新エネルギー：「再生可能エネルギー」と「従来型エネルギーの新利用形態」の二つがあり、「再生可能エネルギー」は、太陽光発電、風力発電などの「自然エネルギー」と廃棄物発電、温度差エネルギーなどの「リサイクル・エネルギー」がある。

※8 サハリン天然ガス：サハリンプロジェクトにより採掘される天然ガス。

5. 安心・安全なみなと

みなとの利用者が、安全にかつ利用しやすくなるようにするとともに、自然災害にも強い防災拠点として、安心・安全なみなとを目指します。

① 船舶・船員にやさしいみなとに

短期 中期 長期

船舶と船員に対する様々なサービスを向上し、安全性・利便性を高めます。

■静穏度(せいおんど)※9 向上や岸壁確保に対応するとともに、機能強化においても安全性を高めます。

■サハリンプロジェクト関連の修理点検や準備休憩機能を活かしながら、周辺を通過する船舶に対し寄港を促します。
■水産物の供給基地として、漁業の更なる利便性向上を図ります。

【船舶に対するサービス】

・安全な環境における準備・休憩・避難目的の停泊
・高質な修理点検等のメンテナンスサービス
・高質な水・食料等の物資調達
・交通結節点(こうつうけっせつてん)※10 の利点を活かした効率的な船員交代

【船員に対するサービス】

・食料・生活物資の購買
・飲食・娯楽・入浴・理髪・通院等の街の施設利用
・地域の人との交流

② 自然災害等への対応拠点に

中期

■防災機能を強化し、災害発生時に物流ルートやライフラインを維持することができる拠点をつくります。
■利尻・礼文、北海道、極東ロシアも含めた防災拠点として貢献できる機能を確保します。

◆背後圏域(はいごけんいき)を守る防災拠点

～稚内及び周辺地域が被災した場合の拠点機能～

・他地域からの支援団体・緊急物資等の交通・物流拠点となります。
・被災後の生活・産業活動持続のライフラインを確保します。

◆近隣地域を支援する防災拠点

～利尻・礼文、北海道、極東ロシアが被災した場合の拠点機能～

・背後圏から被災地への支援団体・緊急物資等の交通・物流拠点となります。
・被災後の生活・産業活動持続のライフラインを確保します。

※9 静穏度：波や風の状況をあらわす指標。
※10 交通結節点：異なる交通手段、または同じ交通手段を相互に連絡する乗り換え・乗り継ぎ施設。鉄道駅やバスターミナル、フェリーターミナルなど。